

地域や家庭と学校の学びをつなぐ ICT 活用

— 小学校社会科の実践を通して —

高森町立高森中央小学校 教諭 城井 順一

キーワード：タブレット端末、持ち帰り、地域への携帯、Web会議

1. 従来の課題

本校は、阿蘇の山間部に位置しており、面積も広く、地域全体についての情報を収集（調査活動）することは難しい状況である。したがって、児童の地域への関心は薄く、社会科に対する学習意欲も低い状況である。

また、学校で習得した知識を日常の中で活用したり、地域や家庭で考えたことを学校の学びの中に活かしたりすることが十分にできていないことも大きな課題であった。

2. 目的・目標

(1) 単元の目標

我が国の食料生産の現状から学習問題をつくり、統計などの資料を活用して我が国の食料生産をめぐる問題について調べてまとめるとともに、これからの食料生産について何ができるか自分の考えをもって話し合いに参加し、これまで学習したことと関連づけて考え、適切に表現できるようにする。

(2) ICT 活用の目的

タブレット端末の持ち帰り、地域への携帯、Web 会議システムの活用及び e ラーニングシステムを総合的に社会科の単元計画に図 1 のように位置付けることで、児童の情報活用能力の向上を図る。また、地域や家庭での学びと学校の学びとを結びつけることで、学習意欲の向上・継続及び地域に対する関心を高める。

3. 実践内容

3. 1 地域への実態調査と情報共有（単元導入）

小単元導入時に、タブレット端末を持ち帰り、校区内の食糧生産の様子について調査活動を実施した。児童は休日や放課後を利用し、写真 1 のように校区内各地で発見したものをタブレット端末で撮影する活動を実施した。調査地域を分担することで、広い校区を隈なく調査することができた。調査中には、地域の方との交流も生まれ、声をかけられる機会も増加した。

調査した結果は、写真 2 のように、家庭へ持ち帰ったタブレット端末を活用し、e ラーニングシステムを活用して Web 上での情報共有を行った。

3. 2 調査活動を授業に活かす（単元展開）

実際の授業では写真 3 のように、調査結果を共有することで、「高森町全体ではどうなっているのか」という新たな疑問が多くでた。児童自身が調査したことをもとに学習課題を立て、課題解決型授業を展開させたことで、学習意欲が向上・継続した。

調査活動や授業実践と並行して、タブレット端末の持ち帰りを行い、e ラーニングシステムを活用して、課題別グループに別れての資料分析や学習問題に対する考えを投稿させた。

写真 4 は、撮影してきた写真資料を閲覧しながら、「食材の宝庫、高森町をアピールするには」どうすれば良いか話し合っている様子である。協働学習の場で活発な意見交換が行われ、自分の考えを整理しながら説明することができていた。

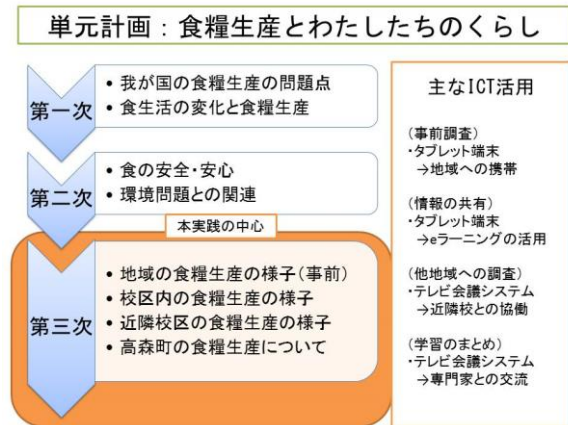


図 1 本実践の単元計画



写真 1 食糧生産の状況を調査する様子

Re: 調査せよ！高森町の食料生産！！
2015年 10月 4日(日曜日) 11:05 - 5年2組-高森中央小
tkc19040 の投稿

です。ふれあいフェスタの時、|ちゃんや、 ちゃん達とキャベツやネギをとりました！そして、帰りに| ちゃんと牛の写真を撮りました。あと、家の近くの田んぼもとりました。昼は、太陽の光が当たって難しかったけど、朝の6時30分くらいはきれいに撮れました！

写真 2 調査活動を報告した児童の投稿

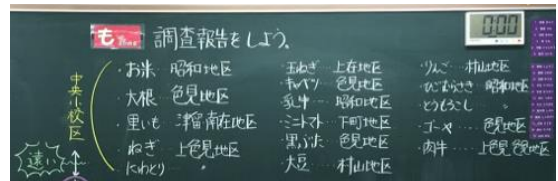


写真 3 調査結果をまとめた板書



写真 4 調査結果を共有する様子

3. 3 学びを地域に広げる（単元終末）

単元終末に「高森町全体の食料生産の様子」についてまとめる活動を行った。しかし、本町には2つの小学校区があり、広大な町内全域についてまとめることは難しい状況にあった。そこで、写真5にあるようにWeb会議システムを利用し、本校児童と同様の調査を近隣校の児童に依頼し、協働でまとめることにした。

実際のまとめる活動では、課題別グループ（5グループ）ごとに交流を行うため、写真6のように両校のタブレット端末5台同士をWeb会議システムで接続し、5つのテレビ会議の場を設定した。タブレット端末を活用したことで、児童は教室にかぎらず必要に応じて図書室など場所を変えながら協働学習を展開していった。課題別グループによるWeb会議を通じた交流は、全体交流では確認できないような、より詳細な情報共有ができ、学校の枠を越えた協働学習の充実につながった。

Web会議では、「東校区はどうなってるの」「そんなのがあるんだ。家のまわりはなにがあるの」等お互いの校区の様子を尋ねる姿が多く見られ、お互いの地域に対する関心の高さが見られた。児童は、高森町全体の視点から、食料生産の現状と将来について考えを深めることができた。

4. 成果

児童向けに四件法にて質問紙調査を実施した。ICT活用に関する調査結果を図2に示す。

本実践にて活用した「テレビ会議システムの有用性」については0.7ポイント、「WEB上での意見交換の有用性」については0.8ポイントの伸びを示した。授業時間だけでなく、休み時間等に交流する様子が増えたり、WEB上への書き込みの数が増えたりしたことからも、児童が有用性を感じていることがわかる。

また、学びに関する質問紙調査の結果を図3に示す。どの項目においても授業後に伸びを示した。質問項目の内、実践前の調査で最もポイントの低かった「地域への関心」については、1.9ポイントから2.5ポイントと0.6ポイントの伸びがあった。授業中の振り返り場面でも、「もっと地域に行って調べてきたい」「友達と調べることで知らなかったことが知れて、楽しかった」等のノート記述が見られた。自分の地域を知ろうとする態度が育ってきているといえる。

更に、他の項目の伸びにも注目したい。ICTを活用し地域・家庭における学びを学校の学びとつなげたことで、児童の学びに対する意識が高まったことがわかる。友達と協力して課題解決しようとする態度や、自分の考えを整理し、まとめようとする態度の育成に効果があったと考えられる。

5. 今後に向けて

本実践を通して、確かに児童は地域・家庭の学びと学校での学びをつなげ、地域への関心を高めながら、学習課題を解決することができた。

しかし、質問紙調査からわかるように、依然として「地域への関心」に対するポイントが最も低い。今後も継続して地域・家庭と学校の学びをつなぐ実践を行う必要がある。そのためには、家庭学習の在り方を再検討していきたい。

また、他教科・領域における取組を模索し、日常的



写真5 Web会議で調査を依頼する児童の様子

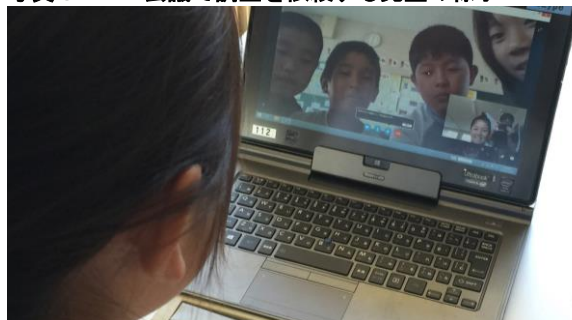


写真6 課題別グループのWeb会議の様子

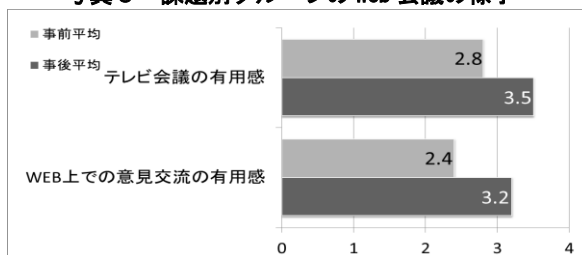


図2 ICT活用に関する質問紙調査結果 (N=19)

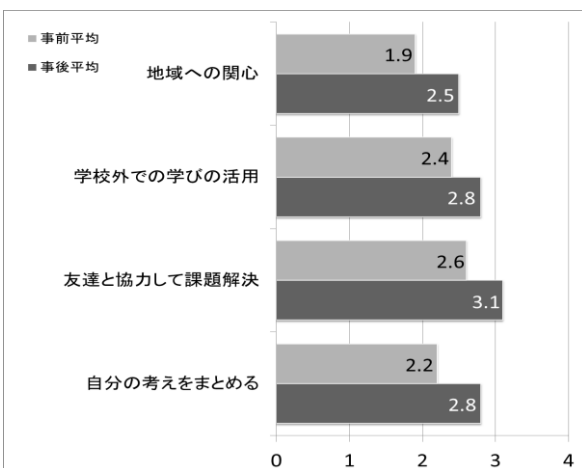


図3 学びに関する質問紙調査結果 (N=19)

な学びの形として定着を図ることも重要である。

これらのことにより、獲得した様々な知識や情報を関連付け、適切に表現する力がさらに育成され、地域への関心が高まっていくものと考えられる。

ICT活用に関しては、児童自身が課題解決に有効だと考える方法を選択し、活用する力を育てたい。そのためには、教師自身が活用場面を選択しながら児童にその有用性を感じさせることが重要となる。常に授業改善の視点を意識しながら、地域を誇れる人材の育成に努めていきたい。